ス れ

ラ ま

橋

ラ 構 ラ 0) R

メ

ラ 説 済

メ

橋 ŋ

は ま

n

ま

10

荷

す

が

面

崩

土

 $\mathcal{O}$ 

b

У

A

Τ ル

カ

とう

砂

防 分

タ

推

進

さ

ñ

 $\mathcal{O}$ 

だ。

ŋ

ま る 接  $\mathcal{O}$ 

にか

かわ

る

勧告

など、

で

単

造

1 ン だ

1 橋

明

す

ジ れ 12

月

21

大学

ジ

剛

節

構)

ラー

メン 日。

橋 金沢

 $\mathcal{O}$ 

公

験 1

が Ì

開

 $\mathcal{O}$ で、

建 架

ス

1 発

維 さ

と展

さ

れ

ま 麺

> ラ 開

] 実 で

メ ま

費

大幅

な 設

減、 るも

> 能 管 た

 $\mathcal{O}$ 理 メニュー

その1

ま 1

1

×

? 催

?

拉

な

6

知 で

0

7

す

が

向

0

ラ

]

メン

造 を

形 実

す

ると

支 で 震

承 要

式 現

 $\mathcal{O}$ 耐

す 性 持 せ

0

びの

は

ド

イツ

а

h

m

е

n

伸 構 上  $\mathcal{O}$ 

装置 部

け

る必

が お

な ょ

造 語 •

形

式

لح

そう

<

下 縮

工

 $\mathcal{O}$ を に す 縮 コ

模

規設

す。 書く

ジ

1

メ

は

む

そうで

日 が

な 小

さ さくて Vol. 3

ちょっとした、得する!耳寄り情報

丸ス産業株式会社 「てんこもり」編集部

願発さ報まを大大て お で少はき躍日明 まし頂しいまっ すてけだきしF る昨し 意い るけまたC校 °てわ 年上層 。 崚の よ楽せ 私げの 頂が誠の うしんわ阜 達ま < ーに 皆 にいががの春 す がす指 ス がたく đ るこ ってく いとする 時間 され、等における 鞭 さんあ  $\sigma$ 撻 んるし皆、る こ時た様本甲 岐  $\mathcal{O}$ 阜 程 ら無いるい V も間耳に当 子 よろ ごま 感事ま 謝3し指す。 ま りを寄元に園 12

お

部

 $\mathcal{O}$ 

施

工 メ

が

複 隅

に

なることや

計

計

算

が

煩

雑

12

誤

魔

L

た。

後

勉

強 化

Ĺ

たこと まし

は、

われ

る

基

礎

調

まで

進

 $\lambda$ 

区

. 域 じ

Þ

な

11

カゝ

な ん ツ

ド

ゾー

0

て

何

れ

たの

で、

たぶ

部が、

上

部工

連

F

ン

致回た導

知優

5 れ 済  $\mathcal{O}$ 

れ て 性 橋

7

1

まし

しの

を旧

と比

構

造 較

上提り気元で

ること

から、

短

橋

梁

には

あ

ま

おの供情と気の

<

そうです。

か

用

いら

れなか

0

た ŋ 支 な 設 雑 角 結 た

TEL: 0574-72-1318 FAX: 0574-72-2739 て発お頂年 で頂活垣はさ願今お行陰き中新はき躍日明、申もまさでした。 いま、大る昨し一すせ、て読け `者ま て

今 回 う な ス は沢 るように 計 た で が 大学で きる Ć ラム 設 で  $\mathcal{O}$ 3 0 算 単 す。 たそ ケ で 供 計 純 実 ように 的 き 試 金 が に に 開 お な り、 *\* \ 発 ても、 さ な れ、 り 容 易に ま 短 専 L た。 施工 時 用 間 ブ 口 ま に

改 良に 隅 より 角部 ラ  $\mathcal{O}$ 構造 1 が メ

な、 W るとき、 が が 慮 話 来 求め L な 木 題 最 事 + た が 目 難 で 初 لح た待受 る は 続 な す き 0 場 性 最 け 5 条 活 合 件 け 鱗 能 て を 近 躍 が をク に 崩 受け  $\mathcal{O}$ あ 擁 L あ ょ 土 ŋ 工 壁 てく りま た講 法 IJ  $\mathcal{O}$ ま 0 ア を て を 衝 する れ 設計、 突を 習会 知 す は た。 そう 0 ŋ 新 考 ŧ ے 法  $\mathcal{O}$ す

制

建

築

物 定

 $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

構 開 あ 体

造規

で、

特

及

ぶる恐

れ は は

0

発る区著

命

また

身

ド

シ

斜

に

説

明

が

されて

面崩にする

になり、

係

警

戒 1

区

域)

が

指

定

P

立

口

災

ゾ 害

シ

す。 共用 績 以 カュ 上 これ され 5 が 完 6 単 て 純 のい

いること 性 が 構 実 ま 7 6 ŋ 試のの が 付け 体に うち なさ 下 公 開 部 は  $\mathcal{O}$ れ 工 7 あ 多 荷 ラ ま る ] 実 L  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 験 メ 応 め、 風 セ 力 景で 写  $\mathcal{O}$ 上 サ 真 伝 部 1 す 七 は 0 わ 工 が か取供 り ル そ

そうで L 総 コ う 公 析 着 方、 で 開 方法 力が 勢 サ 多 鋼 1 で す。 < لح 桁 ル 当 耐 8 実 力 タ 施  $\mathcal{O}$ 設 日 5 ことが に す 計 は 名 コ 及ぼ るの 方法 ンク  $\vdash$  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 発 ような 参  $\mathcal{O}$ 注 の妥当は IJ 機関 は 明 す 加 技 ĺ が 術 珍 確 影 になる 響、 者 L 実  $\vdash$ あ 験 性 など 1) 設 い  $\mathcal{O}$ ŧ 計 そ 解 付 を な

## その2

た。 1 砂 バ 新 IJ 法 造 b 身近に 研 у 工 究 会 法 感じ 61 < 1 る出 . う こと。 域 L V P 為 る。 と F.  $\vdash$ 制 地 さ V 11 査 土 日 あ 何 場 g W 丄 すると生 ッド 砂 5 ゾ 法 うことが P  $\mathcal{O}$ 1 土 る。 ネ 尋 対 財 域 れることに 戒 か  $\mathcal{O}$ W ĺ が 移 危 区 ツ 策 産 許  $\mathcal{O}$ 砂 新  $\mathcal{O}$ ね 同 L 研 き V 住 n W トで ح 災害 域 白川 法に に密 転等 害が そし لح 危険 5 が ツ Š 可 民

7 町 謳

調

査

を踏

まえて できて

主

砂

特別

土 衝 クな 砂 擊 力  $\mathcal{O}$ て 2 究会 工法 僚 捕 低 е 減 捉  $\mathcal{O}$ j t 含ま で 実 0 を あ а 家が す。 8 目 る h р 的 れ  $\mathcal{O}$ 1 а t 急傾 7 出 は n t **全** Ū 11 来 斜 р る : 構 た 斜 面 r لح 造 ユ 崩 V i 二壊  $\mathcal{O}$ ツ職 物 n

 $\mathcal{O}$ 

単 う

用

 $\mathcal{D}$ 

植

購 

Ļ 

入カ

他

メ

 $\mathcal{O}$ 

製

品

通

T

が

る ま

Т. る

定

B

決の

のに

で 予

は

い

きた

思

11

ま 上

У

藤

井

通を

1) 商

の行護

提

L 事た現

そ

しは調法

メい

1

力

لح 案

いを

での

ま

しない話

あせ

た

事

0

لح

教

え

て

頂  $\mathcal{O}$ ] 変 関

止釘

工遊

工選歩た。

にの

つ切

い土

地の

查面

を保

アンカーピン

不織布等

社 者 元 注 際

言う

事 考 は

で え

す

例 て た ょ

えば、

今

回い

をは請

ス

う

よっ

<

知

識

等

 $\mathcal{O}$ 

向

努

力

面

て 法

法 定 道

世を

 $\mathcal{O}$ 

記

事

を

で

<

私ん

大 実

地山

基材

工 7

> L 事

ツ

を

再

認

さ

せ

よにお係

合に

がわなた

0

る

メ 自

身 事

次力

肥料袋

L 1

カゝ

6

後

言

事

そ

今

 $\mathcal{O}$ れ

よう

な

法

面

保護 える

お

て、

実

る 口 そ

植

生

を、

1)

実 工

なかにには

15

為 剣

に

どう 王

L

5 は

らい

良確

をす

し

業た受

真 る け

に

なく

な

情 昨 11 さた

事 が報年 あサ 1 月  $\vdash$  $\mathcal{O}$ しに 下 左 旬 記 に  $\mathcal{O}$ ょ 建 う 設 な 車

メニュ-その3

れか

どが

植植

生

7

ツ

で

 $\mathcal{O}$ 

施

工

を

な

0

た

لح

お

0 カコ

<

た た提トの生 . 予算 で 案 適 L かて て、  $\mathcal{O}$ L 11 市 で 宿 岩 た 毛 地 لح 単 用 11 価 時 は、 う  $\mathcal{O}$ 用設限事製 の計 5 で 品

 $\vdash$ 軟 厳 工 L で いは 玥 の植 地 生法 7 面 ツ な て頂 11 7 < う カゝ カュ 私 ツ 事 1

نح が 0 6 す 確 た 再 点 認 度 れ 現 出 来 ま 地 業 調 11 査 者 述 な そ を が かれ 実 受 施 0 を

た 発

植内れし 個 人 で  $\mathcal{O}$ L

会計検査院が、植被率が不十分だった151ヵ所の土 壌の硬さを調べたところ、そのうちの80ヵ所が、植生 マットには適さない「硬い土壌」に相当していた。会 計検査院は、同工事についての設計図書なども併せて 検査。植物が十分に育っていないのは、施工前におけ る同市の調査不備と判断ミスによるものと断定した。

【2006年度会計検査報告】土壌の調査

2006年度の決算検査報告では、植生の設計ミスが2

件指摘されている。例えば、高知県宿毛市が実施した

植生工事。事前の土壌調査を怠り、誤った施工法を採

用した。その結果、植生が十分に育たず、侵食防止や

指摘されたのは、宿毛市総合運動公園の遊歩道新設

に伴う法面の植生工事。同市が国庫補助金の交付を受

検査の結果、施工面積9983㎡のうちの2922.3㎡で、

植被率(法面を植生が覆う面積率)が70%未満の状態。

植物生育の成否の判定基準を満たしておらず、地肌が

同市は、今回の植生工事を植生マットを用いて行な

った。植生マットは、不織布などで種子や肥料などを

挟み込んだ基材とそれを押さえるネットからなる。こ

のマットを、法面にアンカーピンなどで固定していく

切り土法面で同施工法を用いる際は、植物の根が土

中にきちんと伸長できるかを、土壌の硬さ(土壌硬度)

を調べて判断しておく必要がある。同市が設計の指針

とした「道路土工ーのり面工・斜面安定工指針」(社

団法人日本道路協会編)によれば、硬い土壌の場合は

植物の生育に適さないので、植生マットでなく、吹き

付け工を用い、植生基材を通常より 厚めに吹き付ける

施工方法を採用することになっている。

風化の抑制といった工事の目的を達成しなかった。

け、2005年度から2007年度にかけて実施した。

露出している部分もあった。

を行わず、誤った植生方法を採用

え 口 ŧ 0 はる私 て 集 1 ョフ 7 業者 ナ 場 ると 寸 エ 考 ル プ نظ で ま 6 لح ツ

も応 は

ば、意 見 を

け 11 お

込

むこ 品

ょ

ŋ

大 8

変 を 欠

軟

せ  $\mathcal{O}$ 

ち 地 漬 期

料

理

ŧ

方

 $\mathcal{O}$ 

保

存

:食でこ

時 せ

7

で

す。

す

る

麹 カコ  $\mathcal{O}$ け す 間

5

あは 題

土方 ま て販を

 $\mathcal{O}$ 

らけ事な 事なれをが な期 はめこの 漬 

時

 $\mathcal{O}$ 

気

商

る

電白

麹

け

す

麹

漬

n 記 でいば

 $\mathcal{O}$ 口 度 11 まけ期 生 草 ょ フ が 7  $\mathcal{O}$ 工 本 Ŕ 꽢 社 に 違 う エ 施 又 ツ う 植 年 お ŧ な 工 は シ 点 そ 度 被 法 1 と 間 木  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 率 7 彐 発 血 な 本に 題 ナ 業 考 判 注  $\mathcal{O}$ は、  $\mathcal{O}$ る 者 ル 慮 定 判 に 解 年 定 不 と 等 ょ 時 L 度 決 で n 期 基 7 適 L を 末 て、 て、 す 植 B 準 頂 切 を す 被 配に な 避時

で 料ののは、 製 お 売 その4 造理鄉地 店 紹お 介川



するめこうじ漬け

今年、第1回目の「てんこもり」いかがでし たでしょうか?今回も私達が、最近気になった 事や楽しかった事、ちょっと得しそうな事等を 紹介させて頂きました。また読者の皆様からも、 色んなニュースの紹介をお待ちしております。 (自慢話、おいしい・楽しいスポット紹介、サ 一クル紹介等どんなことでも結構です。)写真 をつけてくだされば最高です!こちらまでご連 絡ください。丸ス産業株式会社「てんこもり」 編集部 責任者 藤井TEL0574-72-1318 FAX 0574 -72-2739 s-fujii@marusu21.co.jp

速

合

ま 話 Ш 0 町 5 赤 7 河 4 b 1 7 0 У 商 3 7 3 店 ル メ 加 1 1 茂郡 0 6

のか 力 味 お 屋 を 問 どう (V) 11 合 ち、 ぞ。 わ り

ま す 11  $\mathcal{O}$ で 田 是 舎  $\mathcal{O}$ 非 昔 お せ き 袋 懐

たり 油 お  $\mathcal{O}$ 揚 で 酒 お げ す 店 豚 で 飯 肉鮭 は  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ • 麹 鯖 お 12 漬 ŧ に け 地 にぴ が す 元 あ産

8

1)

ます。

سلح 寄

 $\mathcal{O}$ 

品

₽

お

取

り

せ

で 商

き